

閉会あいさつ

放送教育開発センター研究開発部長 菊川 健

一言、お礼を申し上げたいと思います。今日は、朝の10時から5時半まで講師の先生方、コメンテーターの方、長時間貴重なご講演と活発なご議論ありがとうございました。それからフロアの方も先ほどから非常に熱心なご討議いただきありがとうございました。センターで昨日オープン・ハウス、本日シンポジウムを実施しまして、昨日の参加者132名、それから今日のシンポジウムの参加者184名でございまして、大変大勢の方にご参加いただきまして、センターとしてはこれだけセンターに対する期待が大きいものと勝手に解釈しまして、今後の取り組みに対して強い励みになっております。ご存知の通り、放送教育開発センターと申しますのは、放送という一つのメディア、それから教育は高等教育、開発というのは理屈だけではなくて、具体的に役立つことをやろうというセンターでございまして、先ほどからございましたように、教育メディア研究室と、それから高等教育研究室、それから教材研究室と三つの研究室がございまして、教育メディア研究室の方は、メディア技術が最近どんどん進んでおりますけれども、メディア技術をいかに教育に生かすかという観点で教育を研究しておりますし、高等教育の方ではメディアを利用した教授法とその評価と、それから教材研究室というのは教材研究と教材開発ということに取り組んでいます。今後もこのような催しをどんどん致しまして、皆さん方の大学改革をメディアの中から支えていこうという気持ちでございまして、どうか今後とも覆いにご利用いただきたいと思います。それから来年のことですが、来年は世界の大学とメディアと題しまして、世界のいろいろな大学でどのようなメディアを、どのように活用して大学教育に生かしているかということで、やはり国際シンポジウムを開催する予定でございまして、もし、また機会がございましたら、ご参加いただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。